

あなたはどう思いますか？ 多くの問題点が見えてきました。

多額の公費負担で町のお金が町外に？ お金のかからない選挙の改善に繋がらない？

供託金制度と公費負担制度の問題点と疑問？

【供託金制度について】

公職選挙法の改正により、町村議選にも供託金制度が（2020年12月12日から）適用され、供託金15万円を法務局に納めないと選挙に出らなくなりました。

また供託金は供託物没収点（一定の得票数）に達すれば返還されますが、達しなければ **なぜか？** 法務局（国）に没収され、国庫（税金の一部）にされてしまいます。

※ 供託金は一般財源に組込まれ、地方自治体に還元されるものではありません。

供託金は当選する気のない候補者や売名行為防止のために必要だと言われていますが、過疎化により議員のなり手がなく、議員制をやめ村民議会（全員）で政を行う村もある中、**なぜ？** 町村に供託金制度を政府は導入したのか？ 私には理解ができません。

【公費負担制度について】

供託金制度に伴い、町は選挙にかかる費用の一部を公費負担（町のお金）で負担することになります。公費で認められるものは、選挙ポスター、ビラ、選挙カーにかかる経費等ですが、これも一定の得票数に達しなければ、公費として認められず、自己負担になります。この公費負担制度は「お金のかからない選挙を実現することによって、公平な選挙が行われるようにするため」と言うことですが、本当でしょうか？

私もお金のない方が、選挙に出れる環境（道筋）をつくりたいと思っていますが、一定得票数に達しなければ最悪です。候補者は供託金を没収され、高額な自己負担を課せられます。選挙は蓋を開けて見なければ分かりません。もし一定得票数に達しなかったと考えると、お金のない候補者は怖くて出馬できません。私は公費負担制度を一切使わない選挙を実行しています。自己負担でも、お金をかけない選挙は出来ます。

それ以上に、大きな問題点が多く見えて喜べません。

① 公費負担により選挙費用は、大幅に増える可能性があります。

個人負担ではなく公費負担になると、高くても公費負担限度額の範囲内なら選挙に慣れた業者に頼んでしまう候補者が多くなることを危惧しています。また公費負担の書類制作費なども上乗せされることもあり、ネットで選挙業者のポスター印刷料金を調べると、一般料金表はあるのに公費負担料金表はないことが多く、またデザイン料などを含むと通常印刷の何倍もの高額になる業者も多くなりました。

② 町の公費負担総額は？ どのくらい多額に？ それは候補者の自覚次第？

これまでになく候補者が乱立する選挙、かなりの高額になると試算されます。

③ そうした公費負担総額のほぼ全額が町外に流出する可能性があります。

ポスターやビラなどの印刷業者や選挙カーを扱う業者が（私が調べた限りでは）大多喜町に見当たりません。町民のために使うべき町の予算が町外に流れてしまいます。

小さな問題点も見逃さず、改善して行くことが大切です。

こうした小さな問題でも解決の積み重ねで、町の財政改善に繋がってゆきます。もし私が議員になれたとしても、私一人では改善できません。議員間での問題共有が必要です。私を支持するかしらないかに関わらず、町の問題点に本気で取り込む姿勢のある候補者を皆様の目で、しっかり見極め、投票して頂くことを強くお願い致します。

子育て世代の若い方々が町政に参加できる環境を作りたい。

志のある者は、若い方でも、移住者でも、お金が無くても町政に参加できる環境は、今後の町政にとって大切なことです。定年された方か、自営業、農業者の方以外は、議員になれないようでは問題です。特に子育て中の若い方は子供たちの未来を真剣に考えます。私も二児（小学生と高校生）の父として、子育て当事者として、未来を考えた結果、出馬を決めました。そうした方々の道筋をこの選挙で作りたいと思います。

自ら、お金のかからない、一人でもやれる選挙の実践を試みます。

裏面と被ってしまいましたが、選挙は終わって見なければ分かりません。供託金や公費負担制度は、私のような者にとっては重荷でしかありません。私は公費を使わずに、すべてを自主製作して、この選挙に挑むことを決めました。それでも、ここまで戦えると言う姿を身をもって証明したいと思っています。

実際、子育てにお金のかかる若者が議員になるのは難しいのでは？

実は私も議員になったら、年収が3割以上ダウンします。それでも私は選挙に立ちました。子供たちにとって大切なふるさとを守りたい一心です。でも実際に収入が減り子育てに支障がでる可能性があります。そのための対策も考えなければなりません。

町の資源を活用した雇用創出策と生活水準の向上策を考える。

考えれば施策は、いっぱいあります。実現に向けて行動を起こすかどうかです。例えば「半農半^{エックス}X」と言う取り組みが各地で広がっています。「半農半^{エックス}X」とは？半自給型農業とやりたい仕事を両立させる生き方です。（兼業農家とは違います。）これは移住者促進、就農定住者、シルバー雇用から耕作放棄地の活用も含め、とても有効な考え方です。ならば「半林業半X」や「半議員半X」があってもいいかと思えます。勿論、議員の役割を全うした上で、地域の為になる仕事の雇用を創出し副業の促進と地域通貨の活用を絡めた、様々な需要と供給のサービスを構築するなど、

新型コロナによって、これまでの常識、価値観は一変しました。

SDGsに代表される持続可能な社会、それは本来なら地方が持っていた力です。「これからは地方の時代だ！」と、胸を張って言える大多喜町に再生しましょう。考え得る策は、ひとつひとつ検証し、実現に向けて一緒に行動して行きましょう。

そもそも議員の仕事って何するの？ どこまでが仕事？

議会や委員会、行事に出席する。支援者の声を届ける。それだけでいいですか？住民の皆様が地域のために活動しているのと同じように、あとは議員さん個人の自主性に任せればいいのでしょうか？ 議員になろうとする者は、本気で町のためになることを考え、施策を提言し、それに向かって身をもって行動する。そこまでやってこそ、はじめて本当の議員と呼ばれるのではないのでしょうか？

最後に、これだけは、はっきり伝えたい！

初出馬の候補者が生意気なことを書き綴りました。「お前に何ができるんだ」と言うかも知れませんが、最低限そんな覚悟も決意もないものは選挙に出るべきではないと私ははっきり言いたい。私は腹をくくりました。だからこの選挙に出馬しました。有権者の皆様においては、本気で町を良くしたいと行動する候補者を見極め、大切な一票を投じることをお願いいたします。そんな選挙になることを心から祈っています。